

みんぱく 映画会

みんぱくワールドシネマ

映像から考える〈人類の未来〉



©2014 LAUREL FILMS COMPANY LIMITED

第42回上映会

2018年 9月24日 [月・休] 13:30~16:30 (開場13:00)

場所 国立民族学博物館 本館セミナー室 **要展示観覧券(一般 420円)**

参加券を11:00から本館1階案内所にて配布します。事前申込は不要です。

主催 国立民族学博物館

家在水草豊茂的地方 River Road

2014年 / 中国 / 103分 / テュルク語・北京語 / 日本語字幕付き
監督・脚本 / 李睿珺 (リー・ルイジュン)

主演 / 湯龍 (タンロン) 郭高濤 (グオ・ソンタオ) 白文信 (バイ・ウェンシン)

司会 鈴木 紀 (国立民族学博物館 人類文明誌研究部・准教授)

解説 小長谷有紀 (国立民族学博物館 超域フィールド科学研究部・教授)

お問い合わせ 国立民族学博物館 企画課博物館事業係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL.06-6878-8210 (土日祝を除く9:00~17:00) <http://www.minpaku.ac.jp/>



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

関西から
文化力
POWER OF CULTURE

みんなく映画会

みんなくワールドシネマ

映像から考える〈人類の未来〉

国立民族学博物館では2009年度から、研究者による解説付きの上映会「みんなくワールドシネマ」を実施しています。10年目の今期は昨年に引き続き、〈人類の未来〉をキーワードに映画上映を展開していきます。今回は中国北西部「河西回廊」を舞台に、ユグル族の兄弟が、離れて暮らす両親の元へ向かう、過酷な砂漠の旅を描く中国映画「僕たちの家に帰ろう」を上映します。二人が道中で出会う人びとや出来事とおして、現代が失いつつある民族の文化、自然環境について知りたいと思います。

第42回上映会

2018年9月24日(月・休) 13:30~16:30 (開場13:00)

場所 国立民族学博物館 本館セミナー室 **要展示観覧券(一般 420円)**

参加券を11:00から本館1階案内所前にて配布します。事前申込は不要です。

主催 国立民族学博物館

僕たちの家に帰ろう うち 家在水草豊茂的地方 River Road

2014年/中国/103分/チュルク語・北京語/日本語字幕付き

監督・脚本/李睿珺(リー・ルイジュン)

主演/湯龍(タンロン) 郭嵩濤(グオ・ソンタオ) 白文信(バイ・ウェンシン)

司会 鈴木 紀 (国立民族学博物館 人類文明誌研究部・准教授)

解説 小長谷有紀 (国立民族学博物館 超域フィールド科学研究部・教授)

映画解説

かつてシルクロードの一部として繁栄しながらも、深刻な草原の砂漠化が進む中国北西部の河西回廊を舞台に、少数民族ユグル族の幼い兄弟が、水を求めて遊牧を続ける両親に逢うため旅する姿を追う人間ドラマ。弟の出産後、病気がちな母と別れて祖父母に預けられた兄は、自分を「要らない子」と卑下し、弟をうらやんでいた。その一方で、現在は学校の寮で寝起きする弟も、兄のお下がりばかり与えられる境遇に不満を抱いていた。待望の夏休みが始まっても父が迎えに現れなかったため、ふたりはラクダにまたがり父母を探しに出かけるが、荒れ果てた自然や廃墟と化する村や遺跡など、近代化の爪痕を次々と目の当たりにする。生まれ育った場所を撮影地に選んだリー・ルイジュン監督は、栄華を誇っていたユグル族の悲運と、中国社会の変動とを重ね合わせ、不意に舞い込む幻想的なシーンに、二度と戻らぬ失われたものへの愛惜の情をにじませる。父を敬い遊牧生活を純粋に夢見る弟と、その様子を冷静に見つめるおじいちゃん子の兄との、衝突しつつ成長する旅の終わりに待つ息を呑む光景に、さまざまな思いが駆けめぐる余韻深い力作だ。(映画評論家 服部香徳里)

中国における環境と民族のゆくえ

舞台は中国甘粛省、主人公は裕固(ユグル)族。彼らは、北方遊牧民の攻防史を反映して、チュルク語を話す集団とモンゴル語を話す集団を含む。さらに、チベット文化の影響も強く受けている。7世紀にモンゴル高原にウイグル可汗(カガン)国を建てたチュルク系遊牧民は、9世紀にキルギス族に追われて祁連(キレン)山脈で王国を建てたが、11世紀にはチベット系タンгут族の西夏に滅ぼされ、さらに13世紀にはモンゴル族の建てた元朝に支配された。こうして複合的な民族集団が形成されて今日に至っている。21世紀を生きる彼らの悩みは草原の劣化である。「都市化」「農耕化」さらには「金の採掘」により草原が傷み、ラクダを飼う暮らしを続けるには町から遠く離れて放牧しなければならない、という設定で物語は展開する。ここ中国北西部の乾燥地域における環境問題は民族問題でもあるのだ。

愛憎半ばする兄弟が、遠牧する家族のもとへ、つかず離れずの旅を続ける。ただそれだけなのに、スクリーンから目が離せない。少年たちの視線を通じて、生活がリアルに感じられる。とくに、艱難辛苦から彼らを守るラクダたちの、巧まざる名演技がリアリティをいや増す。(小長谷有紀)

映像から考える〈人類の未来〉

国立民族学博物館・准教授 鈴木 紀

国立民族学博物館では2016年度より特別研究「現代文明と人類の未来—環境・文化・人間」を開始しました。これは、現代文明の諸課題に対して解決志向型のアプローチをとる研究です。現代文明は物質的な豊かさや普遍的な価値観を広げましたが、同時に環境破壊や文化摩擦を生み出しています。民族学や文化人類学の立場からは、現代文明の矛盾はどのように現れるのか、そしてその解決策は何かを、地域社会や民族文化に視点を据えて考えることが重要です。みんなくワールドシネマのねらいは、この特別研究の問題意識を来館者の皆様と共有することにあります。世界の映画をとおして、現代文明を問い直し、多元的な価値が共存する人類の未来を展望したいと思います。



(C) 2014 LAUREL FILMS COMPANY LIMITED

次回作品 2018年11月4日(日)

彷徨える河

El abrazo de la serpiente / Embrace of the Serpent

2015年/コロンビア・ベネズエラ・アルゼンチン/124分/

スペイン語ほか/日本語字幕付き

監督/シロ・ゲーラ

出演/ヤン・ペイグート プリオン・ティビス

アントニオ・ボリバル・サルバドール



©Ciudad Lunar Producciones

国立民族学博物館 National Museum of Ethnology

●開館時間…………… 10:00 ~ 17:00(入館は 16:30まで) ●休館日…………… 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)

●観覧料…………… 一般 420円/高校・大学生 250円/中学生以下 無料
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内

- 大坂モノレール… 「万博記念公園駅」, 「公園東口駅」徒歩約15分
- バス…………… 阪急茨木市駅・JR茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分
- 乗用車…………… 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
*「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

※高校・大学生・一般の方は自然文化園(中央口、西口、北口)窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。回園内を無料で通行できます。※小・中学生が自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園(中央口、西口、北口)有人窓口で、みんなくへ行くこととお申し出いただき、無料通行券をお受け取りください。※東口からは、自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。

T565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
企画課 博物館事業係
Tel: 06-6878-8210 Fax: 06-6878-8242
http://www.minpaku.ac.jp/

